

大人が絵本を 第23回 絵本がつなぐ



司書・読書アドバイザー 安藤 宣子*

小児歯科医師 濱野 良彦**

* 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)
** 医療法人元気が湧く 理事ファウンダー

🐧 多文化社会、ニッポン

絵本と図鑑の親子ライブラリーが位置する福岡市南区大橋は、国際専門学校や外国人留学生の受入校があり、外国人居住者の多い地区で、ビブリオ会員にも外国籍の方やハーフのお子様がたくさんいます。当館開館2年目の10月31日、ハロウィン当日のこと、海賊やお姫様の装いをした子どもたちが突如、押し掛けてきました。特別なイベントなど企画していないところに「トリック・オア・トリート」と言いながら、オランダ人と日本人のハーフの姉妹、日本人とルーマニア人のハーフの三姉妹、そして日本人姉妹がやってきたのです。日本でも10月にハロウィンの飾り付けをするなど、イベントとしてかなり浸透してきていますが、仮装となると企画された催しへの参加が主で、まだまだ限られています。それを子ども自らハロウィンの仮装でやってくるとは、「さすが多文化の街!!」と思ったものです。

このような地域がら、当館では多文化絵本を多数、取り揃えています。デザイナーの駒形克己氏が現地で選び抜いた海外13か国の原書絵本は、その出身国のお母様やお父様、それに外国語を主言語とするお子様に楽しんでいただいています。日本語による多文化絵本では、選書者のひとり、絵本作家でフリーキュレーターの広松由希子氏の選書コーナーで特に充実しています。

多文化とは、「さまざまな地域、民族、文化がそれぞれの価値をもって、他者の多様性も認識し認めて共存していこうという考え方」¹⁾です。文学の世界をみると、多文化絵本とは「文化・風習・習慣の違いが、どのように絵本という文化財に反映されているか」²⁾という視点になります。

🐧 いろんな国に興味をいだく

生まれた国や両親の出身国に関係なく、子どもたちが興味を持ち手に取る多文化絵本の代表格は、「国旗えほん」で、幼児から大人まで幅広い年齢層に好まれる人気の絵本です。親子で、兄弟で、友達複数人で絵本を囲んで一緒に見る姿や、クイズ形式で楽しむ姿がよく見受けられます。国旗絵本は、世界の国や国旗への高い興味・関心が惹きつけるものです。



『世界がわかる
こっきのえほん』
ほここうぼう 絵
(学研)



国や民族への関心とは全く別に、キャラクターへの愛着が自然と多文化を知る機会につながることもあります。そもそも絵本とはそういうものなのです。子どもたちの大好きなキャラクターには、外国生まれのものも多数あります。フランス生まれの「ペネロペ」に、フランスを舞台とする「バーバパパ」、北欧生まれの「ムーミン」、アフリカで生まれたさるがアメリカ文化で暮らす『ひとまねこざる』(おさるのジョージ)、イギリス生まれの『ぞうのエルマー』とあげればきりがありません。これらのシリーズ絵本が大好きな子どもたちは、この人気者たちと一緒に遊び、楽しむことで、それぞれの国の文化や習慣とごく自然に触れ合っているのです。

🐧 異国文化を受け入れ、楽しむ国で

日本では、クリスマスやバレンタインなど外国の

手にするときは！

文化の輪～多文化絵本～

企画 濱野 良彦

構成 木須 信生 ※※※

※※※ 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)

文化が根付き、昨今のハロウィンの広がり、外国文化はますます身近なものとなっています。本来の意味合いから離れたイベントとして愉しむ国民性を「無節操」と批判する声もありますが、ここではその問題には言及しません。多様な国籍の方が暮らしている日本で異国文化を受け入れて、その文化を積極的に愉しみ、多文化社会を構築していくことは、グローバル社会としてみれば、意味も見いだせるのではないのでしょうか。

クリスマスシーズンにこんなことがありました。お母様が3歳のお子様にサンタクロースの話をするけれど、「煙突から家に入ってくる」ことをどんなに説明しても、「玄関で待っていれば会える？」などと聞いてきて、理解していない会話が延々と続くということでした。マンションが林立した福岡市内では煙突など見ることがありませんので、子どもたちには煙突も暖炉も想像外のものでしょうし、そこから人が出入りする様子なんて、イメージできることではないでしょう。そこで活躍した絵本は、アメリカの神学者であるクレメント・C・ムーアの詩によって、世界中に知られるようになったサンタクロースのお話『クリスマスのまえのよる』です。

子どもたちが寝静まった夜中にサンタがやってき



『クリスマスのまえのよる』
クレメント・C・ムーア 詩
ロジャー・デュボアザン 絵
こみやゆう 訳(主婦の友社)



『しずかなしずかなクリスマス・イヴのひみつ』
クレメント・C・ムーア 詩
アンジェラ・バレット 絵
石井睦美 訳(BL出版)

て、屋根の煙突に入り暖炉から飛び出してくる姿が、赤を基調とする鮮やかな色彩の中で描かれています。ひと仕事を終えると、また暖炉から煙突を昇って屋根の上にひらり。この絵本は縦33cm×横17cmという縦長サイズで、煙突からシューッと降りるシーンが演出されているのです。子どもたちがワクワクしないはずがありません。そのお子様はすぐに気に入って、「もう一回」と何度も繰り返し読みを楽しんでいました。「煙突から入ってくるサンタクロース」の姿をイメージできただけでなく、きっとクリスマスに対する期待度と興奮度も高まったことでしょう。

このお話は、もう少し年齢が上の幼稚園児や小学生向けに『しずかなしずかなクリスマス・イヴのひみつ』がありますし、高校生・大人向けでは『聖ニコラスがやってくる!』があります。元のお話はすべて同じなのですが、イラストレーターや訳者が異なると、違ったお話のようにも受け止められるので摩訶不思議です。読み比べてみるのも楽しいです。



こんなに楽しい多文化絵本



日常行うおはなし会では、日本の伝統行事と文化に触れる絵本を盛り込むようにしていますが、日本のものに偏ることなく多文化的に各国の絵本を混在させて、さまざまな角度から楽しめるようなプログラムづくりを心掛けています。

ビブリオおはなし会や院内おはなし会で大人気の多文化絵本といえば『べべべんべんとう』で、3歳くらいから楽しめるお弁当絵本です。毎朝お母さんが家族分作ってくれる弁当の紹介から始まるので、子どもたちは「卵焼き、好き〜」とか、「エビフライあったよ!」などと、単純に食べ物を楽しみます。ところが、途中からタラバガニやイクラなどが入っ



た北海道の食文化に規模は拡大していきます。沖縄の地図とともに、シーサーが紹介する沖縄名産弁当が終わるとスケールはさらに広がり、なんと国別の弁当へと展開するのです。食育だけでなく、食文化理解のユーモアたっぷりの絵本に、子どもたちのボルテージもどんどん高まっていきます。アメリカは？ フランスは？ イタリアのくんだりでは「ピザ、この前、食べた～」なんて声飛び出していきます。そして、アフリカの文化色強いオチに、子どもも大人も大笑いです。そんな笑いも大いに取り入れながら、最後には日本の伝統的文化食「おせち」で結ばれ、心も脳もお腹もいっぱいになる多文化絵本は、おはなし会での使用頻度もついつい増えてしまいます。

アフリカのケニアを舞台にした『ハンダのびっくりプレゼント』では、果物の入った籠を頭に載せて運ぶ子どもの姿に、「籠が帽子なの？」などという質問が出てきます。絵本の画像を客観的に見ている子どもたちは、主人公が頭の上に載せた籠の中身に起こる異変に気付かず歩いていく姿に、「あははっ」、「あ～あ」といった感情、感想の自然な声も尽きません。そして馴染みのない果物の登場に、「グアバって何？」「マンゴーって何？」と知らないことの質問攻めです。子どもたちの生活圏内にはない事柄に触れることで、疑問が言葉となるのです。子どもたちの好奇心や貪欲な情報収集力には、本当に驚かされますし、司書の満足度も高まります。質問事項については想定内ですので、予め準備していた図鑑を使って一緒に確認していき、子どもたちの満足度もより高まるような演出をしています。世界にはいろんな人がいて、自分と変わらない年齢の子どもたちが家畜の世話や、水汲みをしたりして生活するなど、ちょっとした違いを感じてほしいなと思います。



多文化共生



多文化共生社会について、2000年に国連とユネスコで「文化の多様性を擁護する」という宣言が出されました¹⁾。福岡市は2003年に「福岡市国際化推進計画」全200施策中、60件を大項目「多文化共生の地球市民の都市」を目標とするものとして掲げました³⁾。その後、2010年8月に国が「日系定住外国人施策に関する基本指針」を策定し⁴⁾、多様な国の文化や考え方を理解できる環境づくりが全国各地で進められています。このような社会の中で図書館の果たす役割は大きく、日本文化の理解もまだ発達途中の子どもたちへ絵本が果たす役割はなおも大きな位置にあります。

利用者の属性それぞれに適切で幅広く、何よりも子どもたちが自然と楽しく身につけられる情報を、私たち「医療法人元気が湧く」グループでは、小児歯科という医療の現場と、そして絵本と図鑑の親子ライブラリーという情報基地である文化施設の現場、この双方から行う地域社会への発信こそが大切な取り組みと位置付けています。外国から来た親子や、国際結婚の家族に母語の絵本を楽しんでもらう場を提供することと、日本人の大人・子どもが身近な多文化の存在に気付き、触れる機会を作ってもらいたいという目的をもって、多文化絵本の収集と提供に努めています。

幼い頃から多文化絵本に触れていくことで、言葉や肌の色、髪の色、衣服など、世界にはさまざまな民族や文化があることを知り、異なる文化について興味を持つきっかけともなります。また、それぞれが違っていることの良さ、素晴らしさを知り、お互いを理解し合う契機ともなるでしょう。

当館が所蔵する外国原書絵本の国別の内訳は、ア

E-mail

安藤：bibliokids.baby1@gmail.com
 濱野：hamano@genkigawaku.com
 木須：nobuokisu@gmail.com

連絡先 福岡市南区大橋 3-2-1 2F
 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ
 TEL 092-557-3272 URL <http://bibliokids.jp>

ビブリオベビー
Bibli
Baby

アメリカ、メキシコ、ブラジル、オーストラリア、韓国、台湾、インド、イギリス、フランス、イタリア、スペイン、ドイツ、ロシアで合計400冊です。当館の特色としている高書架の最下段に設置し、ボックス壁面に国旗サインを貼付して、子どもにも国の違いを識別しやすくしています。書架と同じように各国の絵本一冊一冊にも国旗シールを貼って、国旗に興味を持つ年代の子どもたちが各国に親しみ、各国の絵本を通して、さまざまな文化理解につながる工夫も施しています。



多文化の地域をそっとサポート

当館会員や患者にハーフや外国籍の子どもがいるということは、近隣の保育園、幼稚園、小学校でも同じような子どもたちが多く受け入れられていると思います。そんな文化の異なる子どもたち同士がお互いを理解し深め合うためには、保育者はもとより保護者にも多文化理解の支援が必要です。子どもたちの理解につながりやすいツールは、やはり子どもにとって身近で馴染みのある絵本と言えるでしょう。繰り返しになりますが、「学習」というスタイルではなく、「遊び」のひとつである絵本を通して、自然な理解へと導くことができます。

お仕着せの介入にならないように、当館所蔵の多文化絵本のリストや、多文化テーマ別絵本のブックレビューを近隣の保育園や幼稚園に配布するだけでも、支援となりうるのです。当館会員の中には、日本語を話せるけれど書いたり読んだりするのはまだ苦手で、『かたちでおぼえる あいうえお』や『ことばのえじてん』で学んでいらっしゃる国際結婚のお母様もおられます。時々、「幼稚園からの連絡文を代わりに読んで」という依頼をお受けするのですが、

このようなスタイルで、ちょうど良い距離感を保つたうえで、陰に日向にお手伝いできる「困った時に気軽に頼れる施設」でありたいと思います。

ビブリオキッズが根を張る福岡市南区で、福岡市近郊圏内で、もっと広げて福岡県内、九州圏内で、多文化共生の拠点を目指して活動を広げていきたいと思っています。

多文化絵本は
 いかがでしたか？



文献

- 1) 青木保：多文化世界（岩波新書），岩波書店，東京，2003，p.1-27.
- 2) 福岡貞子，他：多文化絵本を楽しむ，ミネルヴァ書房，東京，2014，p. i - v.
- 3) 福岡市：市政情報・市民参加「福岡市国際化推進計画」平成15年（2003年）策定，福岡市HP <http://www.city.fukuoka.lg.jp>
- 4) 内閣府：日系定住外国人施策に関する基本指針，内閣府HP <http://www8.cao.go.jp>

絵本

- 1) ほここうぼう 絵：世界がわかる こっきのえほん，学研，東京，2009.
- 2) クレメント・クラーク・ムーア 詩，ロジャー・デュボアザン 絵，こみやゆう 訳：クリスマスのまえのよる，主婦の友社，東京，2011.
- 3) クレメント・クラーク・ムーア 詩，アンジェラ・バレット 絵，石井陸美 訳：しずかなしずかなクリスマス・イヴのひみつ，BL出版，東京，2012.
- 4) クレメント・クラーク・ムーア 文，ロバート・イングペン 絵，柳瀬直紀 訳：聖ニコラスがやってくる，西村書店，東京，2011.
- 5) さいとうしのぶ：べべべんべんとう，教育画劇，東京，2010.
- 6) アイリーン・ブラウン 作，福本友美子 訳：ハンダのびっくりプレゼント，光村教育図書，東京，2006.
- 7) 視覚デザイン研究所 作：かたちでおぼえる あいうえお，視覚デザイン研究所，東京，2011.
- 8) 篠崎晃一 監修：ことばのえじてん，小学館，東京，2008.

